

### 1. 活動報告（事務局 記）

—8月8日（日）親子自然観察隊の水棲動物観察に二俣瀬子ども会も参加され、二班に分かれて、須賀河内川をビオトープそばから清瀬峡まで網とカゴを持ち遡上して水棲動物を捕まえてもらいました。ビオトープに仕掛けた異かごも回収し、捕まえた生きものの確認をしました。アカザ・オヤニラミ・カワムツ・ドンコ・エビ・トンボのヤゴなどを確認し、須賀河内川に戻しました。参加者は、親子自然観察隊（親11名、子13名）、二俣瀬子ども会（親15名、子13名）、会員20名と岡崎支援員でした。解散後にトラクターにてたんぼの代掻きを行いました。

—8月15日（日）会員13名が参加し、降った大雨の後始末として、水路に堆積した砂の除去、山からの出水処理をし、ため池の横断橋修理、ビオトープ内の草刈り、旧ハス田の除草、除去草の撤去の作業を実施しました。作業終了時に、9月18日（自然観察隊活動日）についての話し合いを行いました。当日は、二俣瀬子供会も参加希望とのことでした。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

#### ◎行事

- 8月29日（日）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）
- 9月5日（日）維持活動（草刈り・エコアップ）
- 9月18日（土）親子自然観察隊（昆虫観察）  
二俣瀬子ども会（正木会長）親子が活動参加予定
- 9月26日（日）維持活動（草刈り）

### 3. 来訪者の声

今回はありません。

### 4. 会員の声 【 話し上手は聞き上手 】（原田満洲夫 記）

コロナ禍でも活動日には毎回ミーティングを行う。ソーシャルディスタンスを採り乍らでも9時から9時半ぐらいまで一般的挨拶から当日の活動内容を含め説明する人はそれなりに話を進める。が！活動の進め具合を見るとする事がまちまちでミーティングで話された事が行われていない。自分なりにも作業をする人もいる。

説明する時、本気で聞いていないで自分の考や思い込みの活動をしている。特に年齢を重ね耳が遠くなったことも有り、聞いていないで他の話をしている事もあり。

時々自分の説明したことが自分では解っているつもりだったが、もっと根掘り葉掘り説明しなければいけなかったのかと自信暗鬼になる。

説明通りに行かないのは、自分から人の話をよく聞き、話し上手になることが大切だとつくづく感じる年になって来たのであろう。

## 5. 親子自然観察隊 【川の探検】（菅 哲郎 記）

連日暑い日が続き、台風9号の接近に伴い曇り空、現地の朝の気温は28度と次第に上昇してきました。しかし今日は子供たちにとっては待ちに待った「川の探検」です、気温が高いほうが楽しめますが、大人たちには少々過酷です。今年の行事には「二俣瀬子供会」のメンバーも加わり、合同で行うことになり、関根リーダーより魚類の説明をしていただきました。原谷会員より注意事項の説明があり、親子自然観察隊が出発しました。

親子自然観察隊の親子20名ほど、子供会のメンバーも同じくらいとなりましたので、2組に分け最初に親子自然観察隊が出発し、1時間ほどのち子供会のチームが出発してゆきます。親子自然観察隊は関根、原谷さんらのメンバーが引率し、子供会は原田会長がリーダーとなって引率されました。

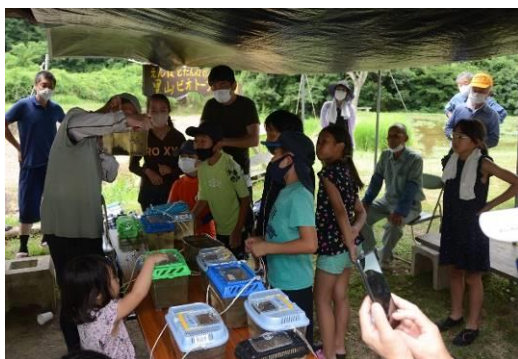
管と前田会員、学生会員とで居残り、魚のワナである「採りカゴ」を6か所仕掛けました。昨年はほとんど魚が取れず、関根リーダーよりアドバイスがありましたので、今年は漁獲量を増やすべく知恵を絞りわなを仕掛けました。おかげで“オヤニラミ”が大小2頭捕獲されましたし漁獲量も20頭ほどと多くとれ、面目を果たしました。

10時半ごろには親子自然観察隊のメンバーが無事に帰ってきました。「魚合わせ」ではヨシノボリ、ドンコ（大きい）、カワムツ、アカザ、オヤニラミ、モクズガニ、スジエビ、ヌマエビ、コオニヤンマ・ヤゴ、と昨年より2種類の魚種が増えていました。また子供会の採集した中には、コヤマトンボ・ヤゴやコシボソヤンマ・ヤゴも見られました。

二俣瀬子供会のメンバーも無事帰ってこられ、雨も降らず、曇り空だったのですが気温も30℃ほどと高く、親子にとってちょうどよい探検行事となったようです。



魚類の説明



魚の名前調べ



川の探検に出発です



親子自然観察隊のメンバー



二俣瀬子供会のメンバー



### 親子自然観察隊の感想

★秋田理莉

初めての沢登りで大変だったけど、魚がとれて嬉しかったです。

★秋田菜那

川の中を歩いて楽しかったです。冷たくて気持ちよかったです。色々な生き物がとれてよかったです。

★秋田(母)

滝壺が思ったより深くてびっくりしました。子どもより自分のほうがはしゃいでいたような気がします。なかなか出来ない体験ができました。ありがとうございました。

★新谷かずや

水の深い所に行けたのが嬉しかった、身体が浮いて楽しかった

★新谷（父）

水の中にいろいろな生き物を見つけられて、宇部にまだ自然がこんなにあると再認識できて嬉しく思いました。しかし以前いた魚がいなくなったと聞き、自然を大切にする事の重要性を感じました。また子供達と参加したいです。ありがとうございました。

★溝邊睦

足が届かないところは怖かったけどたくさん魚を捕まえることができ、川も気持ちよく楽しかったです。

★溝邊（母）

今までは妹が幼稚園で入水できず、初めての沢登りでした。お兄ちゃん達は習い事の用事で参加できなかったのですが、娘と楽しむことができ大満足です。捕まえた魚を教えていただいて、例年よりいろんな魚を見ることができてとても勉強になりました。ありがとうございました^\_^

★渡邊萱

沢登りで珍しい魚のアカザがとれて嬉しかった。

★渡邊芹

初めてやったけど、魚がいっぱいとれて嬉しかった。

★恵美拓也（学生会員）

冷たい沢の水が非常に気持ちよく、小学生の頃を思い出しながら、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。道中、深い場所や小さな滝を登る場所もありましたが、小さなお子さんも皆で協力しながら果敢に登っていく姿はとてもカッコ良かったです。「夏」を体感させていただきました。また機会があれば参加したいです。ありがとうございました！

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （管 哲郎 記）

(66) オオハナアブ *Phytomyia zonata* ハナアブ科

アブとハチはよく似ており、違いが良くわかりませんね。アブは双翅目（ハエ目）でありハチは膜翅目と分類され全く違う仲間なのです。翅を比べてみてもアブは2枚でハチは4枚のようですが、アブやハエの翅は退化？して「平均こん」というバランスをとるものに変化しました。ですからアブの翅は2枚しか見当たりません。また、触角もハチは長くアブは短くなっています。ハチの姿にそっくりなアブもありますが、これは強いハチに姿を似せ身を守っていると思われます。

オオハナアブはハナアブの中でもよく見られるアブで、通常は4月～11月によく見られますが、寒い冬でもお天気が良い暖かな日にはウメや椿などの花に飛来して蜜を集めます。

頭部は黒く、胸も黒いビロードのような毛におおわれ、腹は黄色く太いラインが入っているので他のハナアブとは区別しやすいのです。

ハナアブにもヒラタアブ、ハナアブなど花の蜜が大好きなアブが多く、大小さまざまな種類に分かれています。まだ名前のわからないアブも多く、研究者は大変です。



ツワブキの花で吸蜜



センダングサの花で吸蜜

#### 参考文献

- 海野和男、2014. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑、255pp、(株)誠文堂新光社、東京.  
岡 俊彦、2005. ポケット版 学研の図鑑① 昆虫、208pp、(株)学習研究社、東京.  
福田晴夫ほか、2005. 昆虫図鑑 採集と標本の作り方、236pp、(株)南方社、鹿児島

#### 7. 会よりの連絡事項

- 1) 来年の田んぼは稲作を再開し、6月5日(日)に田植えとして苗も注文されました。田植えは手植えとし、二俣瀬子ども会にも行事として参加するようにと連絡済です。稲作は、辻野さんがリーダーとして進められますが、皆様の協力なしでは進まないの、ぜひご協力をお願い致します。

#### 8. 編集後記 (若林 正治 記)

来年度は「米」を作る事が決まった。それは良い事。また美味しい餅が食べれる。今年のビオトープには「茶色」の場所がある、おそらく来年は全部「緑色」。東京オリンピックも無事に閉幕、選手の皆さんは努力の先に金メダルがあった。自分達も同じ、緑色の管理の先に黄金色に輝く稲穂が見れるだろう。